

地方経済情報 Weekly No.286

フードデリバリーと熊本の飲食店

1. フードデリバリーの発展

フードデリバリーサービスは、個人経営店の「出前」からピザ宅配サービス、ネット注文サイト開始などで発展してきました。近年は、スマートフォンで注文・配達代行を請負う「Uber Eats」など、デリバリープラットフォームが拡大しています。飲食店には、新規顧客開拓、認知度向上、配達委託、受付業務効率化、利用者にはクーポンやポイントなどのメリットがあり、注目されています。

2. フードデリバリー市場の拡大

外食・中食市場の成長率は全体では低下していますが、外食の大幅低下に対し中食はわずかに上昇がみられます(図表1)。また、ネット注文によるフードデリバリーサービスの市場需要は、2023年に6,821億円と2020年比約1.4倍になると予測されています(図表2)。コロナ禍で外食の制限は続くことから、中食のネット志向は今後も強まるとみられます。

3. 飲食店と地域全体の持続のために

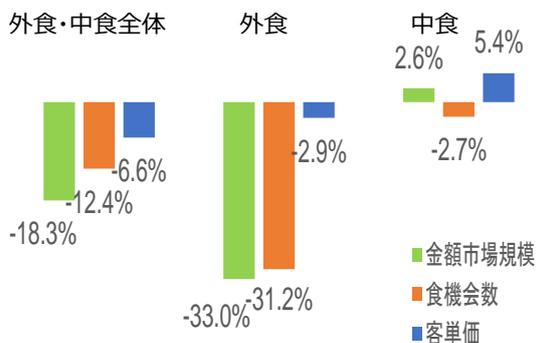
熊本県内では「出前館」など大手業者の進出や、熊本市の「飲食店デリバリー利用促進キャンペーン」で配達料が無料になったなどの効果もあり、フードデリバリー利用は徐々に増加しています。

サービス導入には費用負担がありますが、小規模事業者持続化補助金などの行政支援もあり、負担を軽減できます。

飲食店は熊本市中心部でも空き店舗が増え、苦しい状況が続いています。しかし、観光資源でもある飲食店の賑わいはコロナ収束後の景気回復には欠かせず、飲食店の営業継続は地域全体の持続可能性にも繋がると考えられます。

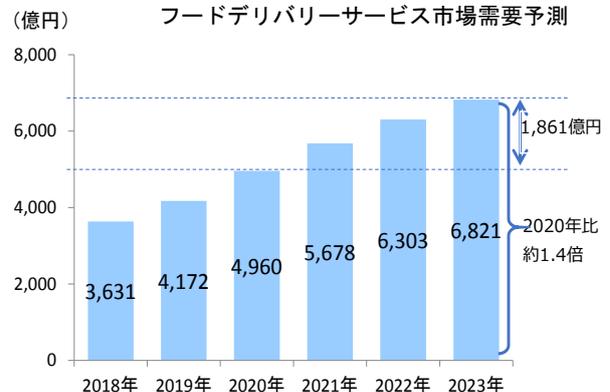
事業継続のために、フードデリバリーなどの新しいサービスや技術を取込み、足元の売上確保と同時に新市場を開拓していく姿勢が必要になっていると考えられます。

[図表1] 外食・中食市場 成長率
(2020年と2019年比較)



資料: NPD Japan, エヌピーディー・ジャパン調べ
外食・中食市場データサービス(2021.2)

[図表2] ネット注文による
フードデリバリーサービス市場需要予測



資料: 「2021年フードデリバリーサービス利用動向調査」
(ICT総研2021.4)